

世田谷区立三軒茶屋小学校
校長 飯田泰三 様

令和7年度 学校関係者評価委員会は、委嘱を受けた三軒茶屋小学校の学校関係者評価委員として以下の内容を報告します。

令和 8年 2月 18日
世田谷区立三軒茶屋小学校
学校関係者評価委員会委員長
池谷 恵美

学校関係者評価委員会報告

アンケート調査について

今回、児童の回収率が昨年度よりも低くなっているのは、インフルエンザ等の流行性感染症の影響で、欠席が多い時期のアンケート調査であったためである。

今年度も保護者と地域のアンケート調査はWEB回収であったため、保護者への働きかけは学校からはすぐーるを利用し、三茶小サポータークラブ（旧PTA役員）からはLINE等を使い数回に分けて発信して下さったことから回収率が上がったと考えられる。保護者周知に関しては、学校と三茶小サポータークラブのご協力に感謝いたします。

また、地域の回収率が昨年度より上っているのは、地域の三軒茶屋小学校への関心が高くなっていると考えられるため、これからも三軒茶屋小学校の取組の情報発信をお願いしたい。

今年度から、学校独自の設問を多く取り入れることとなり、新しい設問と昨年度からの継続設問があることにより、三軒茶屋小学校の児童たちに沿った形の設問になっている。

校長先生はじめ、教職員のみなさまには授業や行事、様々な取り組みにご尽力いただき、子どもたちを優しく見守りご指導いただきました。本当にありがとうございました。

回収小計と回収率

保護者	児童数372名に配布	回収	275通	回収率	74%
児童	5・6年 137名	回収	121名	実施率	88%
地域	30名に配布	回収	22通	回収率	73%
教員	18名に配布	回収	18通	回収率	100%

アンケート結果に基づき期待する改善

○学習について（児童：学習について・保護者：学習指導について）

今年度の児童への「学ぶことが楽しい」の項目への、肯定的意見は、全体では81.8%であり、昨年度の数値よりも高くなっている。学ぶことへの児童の意欲が少しずつ高くなっているとみられるが、「思わない」の意見の児童も一定数いることは、学校として把握しておいていただきたい。

「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」「先生は、工夫した授業をしている」の項目は、全体的に90%以上の肯定的な数値であるが、昨年度よりも若干減っている。これは、回答数が前年度よりも低いことも関係しているのではと考える。また、先生の工夫した授業は、子ども達へどのように工夫されているかが見えにくいことも関係していると思われる。

保護者の項目である「学習意欲や学びに向かう姿を向上させる努力をしている」「子どもの考えを生かした授業をしている」の肯定的な意見が高く、重点目標4にあるように、教職員が児童と向き合い工夫を施した学習指導が保護者に伝わっていると考えられる。しかし、「子どもが探求したくなる学習内容がある」については、肯定的意見も高いが、『分からない』の項目も、多くなっている。児童は、自主的に、募金活動をしたりキャッチボールイベントを計画して、異学年交流での活動を行ったり保護者の見えないところで、児童が活動している。学習は、児童も保護者も信頼をおいて安心して学ぶことができている。今後もこのような学習環境を継続していただくことを期待する。

○生活指導について（児童・保護者）

児童の「私は学校の決まりを守ることを大切にしている」では、肯定的意見が87.6%と高い。規

規範意識を高くもつことにより、決まりについて自分事として考えることができている。また、「私は、友達と協力して学校生活がよりよくなるように努力している」との設問に対して、肯定的意見が83.2%と高いことは、自分自身を大切にし、よく考える子どもでもあり、他者への思いやりをもつ児童が多いからと考える。しかし、二つの設問の中に否定的意見が少なからずあるため、次年度も『決まりはなぜあるのか』の『なぜ』が理解できるよう児童へ働きかけていただきたい。また、保護者項目「子どもが学校のルールを納得できるよう指導している」での肯定的意見が高いのは、教職員の指導について、保護者が好意的に捉えていると考える。しかし「子どもに生活を改善する力を高める指導をしている」の項目では、「思わない」や『分からない』という意見も高いため、保護者への協力も働きかけつつ、学校と保護者の協力を強めて、児童の規範意識を高める努力を、継続的に見守り指導していくことを望みます。

○学校行事について（児童・保護者）

児童項目「学校行事は楽しい」と「学校行事は達成感がある」は、昨年度と同じ設問であるが2項目とも85%以上と肯定的意見が高い。児童が行事の中で様々な体験ができていることが多いと捉えることができる。そのため、保護者項目「子どもは学校行事に積極的である」について肯定的意見が90%以上つけているのは、児童の楽しそうな姿を見ているからであると思われる。しかし、保護者項目「子どもの意見を学校行事に取り入れている」の肯定的意見は78.2%と高いが、『分からない』と答える保護者の割合が多いことと、地域項目「学校行事の内容は充実している」の肯定的意見が、昨年度から大きくポイントを下げていること、児童項目「学校行事は楽しい」の『思わない』という否定的意見が増えていることは、気にしていかなければならない。

○キャリア教育について（児童）

キャリア教育については、児童のみの設問である。「自分の長所をみつめたり、自分の目標に向かって考えたりする授業がある」の肯定的意見が72.3%と高い数値ではあるが『分からない』という回答が15.7%と多いのは、設問の意味が児童たちに伝わっていたのか疑問であり、もう少し分かり易い設問が望ましい。しかし「友達と協力したり、目標に向かって努力したりする授業がある」についての肯定的意見が88.5%と高いので目標に向かう考えや努力については、授業の中で様々な体験を通して取り組むことに肯定的のようである。しかし、自分自身の長所を見つめるという部分については、授業で取り組んでいることと繋がっていない児童が一定数いると思われる。重点目標1にある、キャリア・未来のデザイン教育の実現に向けて、将来の自分を客観的に見つめ目標に向かう考え方は日々の積み重ねである事と考えるため、継続して取り組んでいっていただきたい。

○先生について（児童のみ）

「先生たちは私の話をよく聞いて指導してくれる」は、肯定的意見が92.6%と高評価であり、保護者も先生の学習指導について肯定的意見が高いため、教職員の丁寧な指導や対応について児童の肯定的意見が高評価につながり、保護者も信頼できていると思われる。

また、「先生たちに相談できる」の肯定的意見が82.6%と、年々高くなっていることから、担任に相談できる環境になるように学校全体で取り組んでいることが高評価になっていると考える。今後も学校全体として、児童の相談窓口の拡充に努めていただきたい。しかし、『あまり思わない』と感じている児童も一定数いることから、今後も児童全体に目を向けていく対応をお願いしたい。

○全般について（児童のみ）

学校での生活について児童項目3つは、全体的に肯定的意見が80%以上と高い。「学校生活が楽しい」90.2%。「学校が好き」83.5%である。一日の大半を生活する場の学校が、肯定的に取られているのは、一人一人の個性を大切にされ、学校で経験する様々な取り組みや、先生方のかかわり方の成果であると考えられる。一方で『思わない』と感じている児童も14.7%いることは、教職員も知っていただきたい。

今回初めての設問「自分にはじぶんなりの良さがあると思う」の肯定的意見が、77.7%と高いのは、多種多様な取り組みを経験することで、自己肯定感が高まり自分の良さに気づいてきていると考える。しかし、否定的意見が20%以上となっているが、この時期の児童の心の成長の中で自分自身の事が分からないという事が大いにある。自分の良さをまだ気づかない児童も一定数いることから、学校全体で児童一人一人を見ることで小さな気づきを成長の中で拾い伸ばしていただき、自分の良さに気が付く児童が多くなるための取り組みを、これからも学校として進めていただきたい。

○学校からの情報提供について（保護者・地域）

保護者項目「学校からの情報は適切に提供されている」「本校は、学校公開や保護者会などの開催時期や期間は適切である」の肯定的意見は、85%以上と高いことは、学校のホームページや学校公開、保護者会などの情報が適切に発信され伝わっていると考えられる。

地域項目「学校のホームページに学校生活の様子がわかる情報が掲載されている」の項目は肯定的意見が70%あるが『わからない』という否定的意見が27.3%あるのは、地域への情報が、WEBに

なってしまう事で情報が見られない地域の方も一定数いる事と考える。しかし「学校からのお知らせや学校公開などで、学校の様子が見える」は、肯定的意見が80%以上と高いため、学校からのお知らせで学校公開等の情報はとれるため、学校公開などの学校に直に出向けるよう積極的に地域に開いていただきたい。

また、保護者項目「本校に関わる幼稚園、保育園、小学校、中学校（学び舎）や地域の必要な情報が提供されている」は否定的意見が高い。地域項目でも、区立中学（学び舎）の情報提供への保護者の肯定的意見が低いので、保護者、地域への情報の発信は、引き続き努力を願う。

○学校運営について（保護者）

学校の取組の基礎である重点目標について、保護者項目「今年度の学校の重点目標は適切に設定されている」は肯定的意見が73.1%と比較的高い。「わからない」という意見も高いが、学校の取り組みが重点目標をもとに取り組みされていることは保護者には伝わっている様である。今後も重点目標や三軒茶屋小学校の取り組みなどの分かり易い情報発信への努力をお願いしたい。

「校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる」の肯定的意見が88.7%と昨年度よりも高く、校長先生や教職員の児童への姿勢は伝わっていると考えられる。

○家庭と学校との連携について（保護者）

保護者項目「私は学校公開にすすんで参加している」「より学校の教育活動に協力したいと思う」は肯定的意見がとて高いことは、児童と関わることや学校の取り組みへの関心が高いと考える。また、「三茶小サポータークラブ主催の活動（夏祭り、学校宿泊体験、餅つき等）は子ども達の楽しみになっている」の肯定的意見は92%ととても高い。しかし、「三茶小サポータークラブの活動に積極的に参加したいと思う」の項目になると、44.7%と極端に低くなる。運営側での活動については否定的な意見の方が多い。学校と三茶小サポータークラブは児童のための活動を協同的に行うことが児童にとって大切だと考える。保護者への働きかけは学校も一緒に周知していくことを願います。

○学校の安全性について（保護者・地域）

保護者項目「本校は、安全な学校づくりに努力している」肯定的意見が89.8%と高く、学校への信頼はとてあつい。地域項目の中にも、「学校は安心・安全な学校づくりに努めている」での肯定的意見が高い数値となっている。

次年度も安心・安全な学校としての取組を行う事で、保護者や地域からの信頼をより強いものとするための努力を願いたい。

○給食について（児童・保護者）

児童項目「本校の給食の量に満足している」「本校の給食はおいしい」は、昨年度と同様肯定的意見がとて高い。また、保護者項目「本校の給食に子どもは満足している」もとても高い肯定的意見が出ている。児童も、保護者も三軒茶屋小学校の給食には満足しているとみられるため、今後も継続して美味しく栄養満点の給食の提供を望みます。

◎その他

地域項目の中で全体の肯定的意見が低くなっているのは、学校へのかかわりが減っていることもあると考える。しかし、「学校は地域と協力し、人や施設を教育活動に生かしている」「地域の意見に対して学校は丁寧に説明・対応している」は肯定的意見が高い。また、「より学校の教育活動に協力したい気持ちがある」の項目では、80%の肯定的意見である。地域は学校へ協力することへの関心があり、学校行事や学校協議会などもっと地域が児童たちを見たり関わり合う場場を作ることへの努力を望みます。

教員の自己評価について

教職員のみなさんの自己評価は、全体的に肯定的評価の値が高い項目が多く、児童や保護者が、先生方に対する肯定的評価が高いのは、児童と教職員、保護者と教職員の信頼関係が良いとわかる数値になっている。先生方は、児童への指導に自信をもって児童と向き合い、保護者からの信頼もあることがわかる。「重点目標を日常の指導に取り入れている」の肯定的自己評価は100%であるのは、学校の根幹である重点目標を理解していることで、児童への指導が適切になる。管理職と教職員の信頼関係も継続されているととれる。「教職員は保護者からの相談にはいつも誠実に対応している」の自己評価も100%であり、保護者からの信頼も得ていると捉えられる。また、「管理職は、教職員が働きやすい環境改善に向けて努力している」の自己評価も高く、管理職と教職員の信頼関係が築かれていることで、児童の教育環境がより良いものとなると考えられる。

児童への取組として「本校ではキャリアパスポートを活用し、学校全体の取組として行っている」「校内研究は、授業力向上、授業改善につながっている」「子どもに目標を持たせ、その実現のために支援し

ている」など学習や取組に関する自己評価が100%となっている。児童の学校生活の中で、教職員が自信をもってより良い授業になるように努力されていること、その環境を管理職が作っていることが見受けられる。しかし、情報の発信などについては、今後の課題であり改善していただきたい、児童がよりよい環境で学べることができるよう、学校全体で取り組んでいただきたい。

また、今後の評価委員のかかわり方として、今までは評価委員と先生との対話の無いなかでの評価であり、可能であれば学校関係者評価委員長と先生との対話をする時間が設けられるなら、次年度は考えていただきたい。

総評

子ども達は、ひとりひとりが尊重し合い大切にするという三軒茶屋小学校の学校経営方針に基づいた『多様な児童が自他の個性を理解・尊重し、深く関わり合いながら成長できる学校』とした取組は、自分で考え、他者の視点での意見を受け入れることを通して学び、教育目標である「よく考える子ども・思いやりのある子ども・体をきたえる子ども」に沿った授業や行事、三軒茶屋小学校独自の取組である異学年交流などを通して実施されている。また、キャッチフレーズにある「みんな仲良し三茶小」の考え方は、学校での時間が1日の大半を占める子ども達の生活の中で安心できる場所の一つとして学校がある。今回の評価でも8割がた評価の高い項目が多い。しかし、20%の少しの意見と『分からない』の答えを重点的にみていき、そこを改善していくことが望ましい。

また、学校や子ども達に取り組んできた事を保護者や地域に発信して関心を持ってもらうにはどうするのか。子ども、保護者、地域の意向をもとに、より一層、子ども達の環境が良くなるよう、よりよい学校運営になるようお願いいたします。

